

# ἀλήθεια

アレーセイア

知っておきたいキリスト教のことば (111)

真理 しんり

「真理」とは、誤りのない事実であり、物事の本質をあらわす言葉です。目に見える事象は様々な要因で変化しますが、「真理」は変わることのない正しいことです。

旧約では「真理」のほか、「真実」、「まこと」という言葉に訳されている「エメト」という語が用いられていますが、この語は「アーメン」の派生語となっています。

福音書にも「真理」、「真の」、「真実の」という用例が多く見られます。しかしその用いられ方には特徴があり、マタイ 2 回、マルコ 4 回、ルカ 4 回に対して、ヨハネ福音書には 46 回も登場しています。つまりこの言葉はヨハネ福音書の神学を表す語であると考えられます。

右に挙げた聖句は、イエス様が告別説教の中で語られた言葉です。イエス様はご自分を「真理である」と告げておられます。イエス様は真理を伝えると同時に、真理そのものであることを宣言されているのです。

別の箇所では真理は、人間を束縛するあらゆるものから解放すると書かれています。このことから、イエス様の十字架の意味を考えることができます。すなわち真理であるイエス様は、十字架の出来事を通して、わたしたちを罪の束縛から解放されたと言えるのです。

さらにイエス様は、わたしたちに聖霊を与える約束をされたときに、「この方は、真理の霊である」と説明します。聖霊の主な働きは、キリストを証しすることです。

イエス様を通して真理を知り、そして真理を伝えていく者として歩んでいきましょう。

次回は「過越」です。楽しみに。



「最後の晩餐」

ギュスターヴ・ドレ

(1832~1883 年)

イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを  
通らなければ、だれも父のもとに行く  
ことができない。」

(ヨハネによる福音書 14 章 6 節)

